

令和7年度 園芸科「農業選択 草花」シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	園芸科 3年A組
教科書	草花 (実教出版)	副教材等	実習ノート

1 学習の到達目標

<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、草花の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 草花の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 草花の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>
--

2 学習の計画

月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
4	第6章 鉢もの生産 1 鉢ものの生産の特色	①鉢もの生産の経営 ②栽培管理の特色	鉢ものの経営的特色・栽培管理の特色を理解できる。	ノート記載内容 服装教具の準備 行動観察
5	2 鉢ものの生産資材と商品化技術	①鉢の種類 ②用土 ③水と肥料 ④わい化技術 ⑤鉢ものの消費段階での品質管理 ⑥鉢ものの用途と商品化技術	鉢ものの生産に必要な資材について理解できる。 鉢ものの用途について理解できる。 鉢ものの仕立て方と商品価値を高める技術について理解できる。	作業結果 定期考査
6	花壇用草花生産	マリーゴールド・サルビアなどの春用花壇苗の生産管理	春用花壇苗を見て、名称を答えることができる。	
7	花壇用草花の利用 管理実習	花の装飾 シクラメン	プランターに花壇苗を使った寄せ植えを作ることができる。 シクラメンの栽培管理ができる	
9	第6章 鉢もの生産 3 花鉢もの	①花鉢ものの種類と特性 ②シクラメン ③アジサイ	花鉢の適切な栽培計画について理解できる。 花鉢ものの品質の向上をはかることができる。 花鉢ものの仕立て方や商品化の工夫ができる。	ノート記載内容 服装教具の準備 行動観察 作業結果 定期考査
10	第4章 草花の特徴と栽培技術 1 生産施設と栽培環境の調節	①施設の機能・構造とその利用 ②環境調節設備の利用 ③複合環境施設	温室やハウスの施設・設備と資材の特徴を理解できる。 施設・設備を使った栽培管理技術を理解できる。	
	第8章 草花経営の改善 1 草花の生産と経営	①経営目標と経営計画 ②生産工程の管理 ③流通と販売	草花の生産・流通・販売上の問題点を知り、経営や環境保全、地域社会との関係について理解できる。	

1 1	2ユニバーサル農業の視点	④地域環境に配慮した草花生産	これからの草花生産を支える多様な人材の特徴を理解する。	
	花壇用草花生産	パンジー・ハボタンなどの秋用花壇苗の生産管理	秋用花壇苗を見て、名称を答えることができる。	
1 2	花壇用草花の利用	花の装飾	プランターに花壇苗を使った寄せ植えを作ることができる。	
	管理実習	シクラメン	シクラメンの栽培管理ができる。 草花の特性を理解し、コミュニケーションを取りながら販売することができる。	
1	第8章 草花経営の改善 3経営改善プロジェクト	①施肥量と草花の生育・収益 ②鉢花のかん水による生育・作業時間の違い ③用土の違いと草花の生育の違い ④施設の効率的利用に向けた花壇用苗と鉢花の栽培計画 ⑤花の種類と消費の動向調査	草花経営の改善事例を学び、草花経営の最善策について理解する。 シクラメンの栽培管理ができる。	ノート記載内容 服装教具の準備 行動観察 作業結果 定期考査
	管理実習	シクラメン		

3 評価の観点

知識・技術	草花の生産と経営に関するプロジェクト学習を通して、草花の生理・生態や生育環境などの草花生産に必要な知識と技術、草花生産の計画、管理、評価などの草花経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解している。
思考・判断・表現	草花の生産や経営に関して、生産技術や生産工程、販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し、地域の草花経営の実践例や草花生産が果たす社会的意義と役割などを踏まえるとともに、環境や法令に遵守など、職業人として求められる倫理観をもって、科学的根拠などに基づいて創造的に解決する力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	草花の生産と経営の学習を通して、草花生産が人々の暮らしを豊かにする素材を提供し、生活環境を創造するという社会的な役割を担っていることを理解し、品質と生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる草花の生産と経営を目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む力を身につけている。

4 評価の方法

「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から、評価規準に従い総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ

<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、欠席をしない。 ・授業の準備（授業に臨む気持ち、時間を守る、教科書、ノート、実習手帳、服装、不要な物は持ってこない等）を確実にする。 ・観察、記録等を丁寧かつ正確におこなう。 ・作業は丁寧、確実にこなす。（できるようになったらスピードアップ） ・次に何をすべきか、常に考える習慣をつける。 ・コミュニケーション能力を育成する意識を持つ。 <p>以上について意識して授業に臨んでください。</p>
--